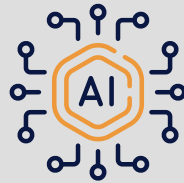


グローバル企業におけるオープンデータの価値

“「オープンデータは、次世代のエージェント型AIにとって不可欠な基盤となります。」
- Jim Zemlin, CEO, Linux Foundation.



OpenData.Orgのデータセットは、222カ国にわたる**3億2400万の組織**、12億人、5億1200万の場所を網羅しており、そのすべてが10万件以上の検証済みの公開情報源に基づいています。



共有オープン識別子は、サイロ化されたシステム間のエンティティを結びつけ、重複レコードを排除し、データシステムを整合させ、企業に「**単一の信頼できる情報源**」を提供します。
(Gartner).



OpenData.Org 構造化識別子とメタデータにより、LLMは検証済みの事実に基づいて構築されるため、AIエージェントはハルシネーションや誤った関連付けを起こすことなく推論を行うことができます。

エンティティ解決やデューデリジェンスのプロセス全体にエージェント型AIを導入する金融機関は、**生産性を2000%も飛躍的に向上させることができます**。
可能性があります。



エンティティデータを公開することで、法人をその物理的な所在地、サプライヤーネットワーク、および原材料と結びつけることにより、**サプライチェーンおよびESG報告の全体像**を把握できるようになります。



各組織は、同じ中核的なエンティティデータのクリーニングに、総額で数十億を費やしています。オープンデータを通じてリソースを共有することで、**運用コストを削減**し、データの精度を向上させることができます。
(McKinsey/GLEIF)



2023年、承認済みプッシュ決済による不正利用額は1兆ドルを超えました。**エンティティ照合データを共有**することで、金融機関は受取人の本人確認、マネーロンダリングの仲介口座の検知、および異常の特定が可能になります (Experian)



OpenData.Orgは、設計段階から**プライバシーを最優先に考慮**しており、GDPR、CCPA、および世界各国のプライバシー規制に完全に準拠しています。また、ガバナンスプロセスにおいては、「忘れられる権利」に基づく要請にも適切に対応しています。



独自仕様でサイロ化されたエンティティデータの時代は終わりを告げようとしています。OpenData.Orgは、信用情報機関の識別子や商用ファームグラフィック・ベンダーに代わる、オープンな選択肢を提供しています。



「エージェントを把握する」とは、標準化されたオープンなエンティティ識別子が、企業間ワークフローにおける**エージェントの身元認証のための信頼基盤**となる、コンプライアンス分野の新たなフロンティアです。



「オープンライセンスで提供され、高品質かつ共同で維持管理されるデータセットは、あらゆるAI技術プロバイダーや導入企業にとり、まさに信じられないほどの機会となります。」
- Gabriele Columbro, FINOS 事務局長

グローバル企業におけるオープンデータの価値：主な活用事例

データ品質の低さにより、企業は数百万の損失を被っています。**エンティティ解決とマスターデータ管理**により、レコードを関連付け、重複を排除し、統一されたビューを構築することで、より適切な意思決定が可能になります。



オープンデータとAIは、共有エンティティグラフや自動化されたワークフローを通じて、**貿易コンプライアンス**の効率化、オンボーディングコストの削減、企業間での本人確認の向上、および不正検知の迅速化を実現します。



オープンなエンティティグラフを活用することで、銀行のコストを削減し、**資本市場分析**を精緻化し、企業間の関係を整理することで、オープンデータセット全体にわたるリスク検出、ポートフォリオのスクリーニング、および規制に関する知見の獲得が可能になります。



AIエージェントを標準化されたエンティティデータ、ナレッジグラフ、および出所追跡に基づいて構築することで、誤った情報を生成する現象を減らし、精度と検索能力を向上させ、ドメイン横断的な知能を強化することができます。

検索機能を活用した生成技術は、構造化情報と非構造化情報をLLMと組み合わせることで、事実に基づいた文脈豊かな応答の質を向上させ、リアルタイムのエンティティ解決を支援し、リスク領域全体にわたる分析能力を強化します。



マルチエージェント・インフラストラクチャは、エンティティグラフ、エージェントIDフレームワーク、ゼロトラスト型のIDおよびアクセス管理アーキテクチャ、相互運用性プロトコルを統合し、**Know-Your-Agent**アプリケーションのワークフローとガバナンスモデルを強化します。



グラフベースのクレジットモデルは、企業体と財務データを結びつけることで、リスク評価の精度を高め、経営難の兆候を検知し、与信判断の参考とし、市場を横断したクレジットモニタリングを強化します。



単一エンティティの視点では、**顧客生涯価値**を限定してしまいます。統合されたエンティティグラフを活用することで、顧客をより包括的に把握し、成長の可能性を明らかにし、商機を優先順位付けし、長期的かつ収益性の高い顧客関係を深めることができます。



環境・社会・ガバナンス（ESG）報告では、**サプライチェーンのパフォーマンス**を評価するために、サプライヤー、流通業者、労働者、資材、資金の流れを結びつける、位置情報を認識するエンティティグラフが不可欠です。



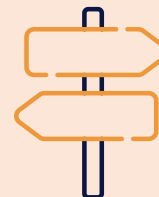
エンタープライズ インテリジェンスは、公開されているウェブ上のシグナルやオルタナティブ・データを活用し、従来の構造化データセットを利用するユーザーよりも早く、合併、新製品の発売、戦略の転換などを検知します。



小売店舗や倉庫の立地選定には、人口統計、移動状況、競合他社の立地に関するデータが必要です。オープンデータを活用することで、立地の一極集中を緩和し、**インフラや物流に関する意思決定**をより的確に行うことができます。



地理空間データや経済データは、**災害対策、復旧、および資源配分**の指針となります。公開データセットやAIモデルは、国境を越えた連携、ガバナンス、そして危機後のレジリエントな開発を促進します。



グローバル企業におけるオープンデータの価値：新たなオープンデータプロジェクトの立ち上げに関する考察

基盤データへのオープンアクセスは、イノベーションを加速



成功するオープンデータプロジェクトは、**インセンティブを調整**し、貢献に対して報い、コストとアクセスのバランスを取り、ベンダーを巻き込み、品質、成長、そして幅広い参加を持続させるサービスベースのモデルを重視します。



明確なミッション、定義された範囲、そして強力なリーダーシップは、ガバナンスを導き、貢献者を惹きつけ、オープンデータやオープンソースソフトウェアのプロジェクトにおいて、公共の利益と私的なリスクのバランスを保つ役割を果たします。



適応性の高いインフラ、積極的に関与する管理者、そしてユーザーからのフィードバックの循環により、変化し続けるデータニーズに対応し、アクセスレベルのバランスを取り、品質を向上させ、信頼性が高く拡張性のあるデータエコシステムを維持します。

透明性の高いガバナンス、**積極的なユーザーの参加**、柔軟な貢献モデル、そして進化し続ける法的保護措置が、大規模なオープンデータプロジェクトにおけるデータの品質、関連性、そして責任ある成長を促進しています。



データの由来の追跡可能性、継続的な検証、積極的な監視、そして共同による管理を通じて正確性が維持されています。これは、各組織が**データの量よりも品質を優先**し、リソースを共有することでデータの信頼性を高めているためです。



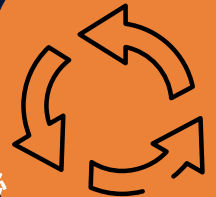
成功するプロジェクトチームは、**リスクに早期に対処**し、アクセス権限の階層を定義し、完全性と正確性を追跡し、厳格なチェックを実施し、不測の事態に備えた計画を策定することで、信頼と回復力を築きます。



オープンライセンスは、世界的なデータ共有やAIの学習を支援し、法的な摩擦を軽減し、データの出所を明確にし、ユーザーが組織やユースケースを超えてデータセットを自由に組み合わせ、活用できるようにします。



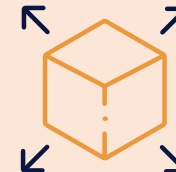
新しいデータプロジェクトの創設者たちは、そのデータをどのように活用してほしいかについて、批判的に考える必要があります。ライセンスの決定にあたっては、**将来的な二次利用の可能性を慎重に検討**する必要があります。



地域社会との積極的な関わりは、**アイデアを生み出し**、創造性を高め、合意形成を促し、持続可能なモデルを築き上げます。オープンな対話とフィードバックが意思決定を導き、協力を強化するからです。



成功した**最小限の機能を備えた製品**は、独自のデータを際立たせ、部門間の壁を越えて情報の断片を埋め、技術的負債を最小限に抑え、協力者を惹きつけ、オープン性と独自データのバランスを取りながら、スケーラブルな導入を実現します。



オープンデータの恩恵を世界中で公平に享受するためには、**コンピューティングへのアクセスと処理能力の拡大**、スキルや人材を育成するパートナーシップの構築、そしてデータ・スチュワードシップの向上が必要です。